

第 11 回 国際薬物動態学会にてポスター発表

2016 年 6 月 12 日から 16 日に韓国・釜山の Busan Exhibition and Convention Center にて開催された The 11th International ISSX Meeting に参加しました。本学会では薬物動態研究に取り組む研究者達が集い、興味深い発表を行っていました。

私は 6 月 13 日に「自己ミセル形成型固体分散体アプローチによるシクロスポリン A の体内動態改善：食事に起因する体内動態変動の抑制」という演題でポスター発表を行ってきました。本研究は食事の有無によらず安定した薬物の経口吸収を得ることを目的としています。食事の摂取は薬物の吸収性に大きく寄与することがあります。特に水に溶けにくいような薬物は食事と一緒に摂取することでその吸収性が著しく増加します。過剰な薬物吸収は副作用のリスクを高めま。そのような薬物において、溶解性を改善するアプローチを行うことで、その薬物の経口吸収性を高めると同時に食事の前後で同等の吸収性を得ることが可能となります。我々は難溶性薬物であるシクロスポリン A に新規製剤技術である自己ミセル形成型固体分散体制剤技術を適用することで薬物の溶解性改善し、かつ食事の有無にかかわらず高く安定した経口吸収を獲得し、食事の影響の軽減を達成しました。本研究成果を薬物動態の専門家と英語で議論でき、研究の参考となる多くの意見を聴くことができました。

本学会を通して自分の伝えたいことを英語で伝える難しさと重要性を身をもって体感するとともに海外研究者の発表を直接見ることができ、今後の研究やプレゼンに対する課題を理解する良い機会となりました。このような発表の機会をいただけたことに心から感謝いたします。

薬食生命科学総合学府 薬食生命科学専攻 薬物動態学教室
博士後期課程 2 年 鈴木 寛貴

